

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(詩明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2372201109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和2年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき!」と思える家づくりがわがグループホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいは、皆と力を合わせることで、生活を送ることができるはずと模索している。たとえ、認知症の進行があつたとしても、その人ならではの役割づくりに着目しながら生活している。日々の活動では、天気の良い日には散歩に出かけ、認知症があつても普通に生活している様子を知らせるのがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみになることとして、外出や外食等も積極的に行っている。春祭りや運動会もチアフル全体の行事として地域も巻き込み行っている。また、児童館の子供たちと七夕会やクリスマス会で定期的に交流を持ち、昔遊びの道具を使つては子供たちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が子供たちの前で腕前を披露する姿が得意げで相互交流に意義を感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念は職員が確認できると所に貼り出し月1回のミーティングで出来るだけ唱和できるように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在コロナウイルスの影響で外出・地域の方々との交流は余りできていないが散歩に時々出かけるときは地域の方に対して挨拶交流が出来るようにつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に1度推進会議を行い活動報告を行っているが、現在はコロナの影響で行っていない。ブログ・チャフル新聞にて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	各ユニット毎に目標を立てその目標を出来るだけ達成できるように取り組み活動報告を行い、日々の活動がより良い活動になるように地域の方々から意見、アドバイスを参考にサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	全職員が携わっているわけではないが、運営推進会議で意見交換を行いながらサービス向上に努め協力関係に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置して3ヶ月に1回各ユニットで言葉の拘束・心理的拘束等の項目に沿って集計を行いその資料について職員同士話し合いの場を設け身体拘束をしないケアに取り組む身体拘束をしないケアが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	自分・他の職員の状態・状況などの様子を観察しながらその時の心理的状态に気付き職員同士協力しながら虐待が発生しないように努め、身体拘束委員の担当者にアドバイスなどを頂き虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人・権利擁護について難しく理解が出来ている方が少ないかと思う。今後勉強の機会があれば参加したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はご家族様・ご利用者様の些細な疑問・不安などを聴き安心して頂ける様に関わりを持ち分かりやすい言葉で説明を行い、再度ご家族様・ご利用者様に尋ね不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が面会に来られた時はコミュニケーションを積極的に行い話しやすい環境・関係性に努めご家族様の意見を反映できるように努めているがコロナ影響の為オンライン・電話等活用してが家族様の意見を頂き反映できるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回面談の機会があり職員が相談・要望・意見など話せる環境でもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	時間帯・曜日・急な体調不良時の対応などで常に人員不足時があるのでモチベーション向上には難しいが職員同士助け合いながらお互いに感謝の気持ち・ねぎらいの言葉などをかけながら業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会で学んだことを職員の性格・力量に合わせた教育を行い考える判断力を身につけられる様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流出来るネットワークを行いながら同業者との交流の場・研修の参加を促して頂いているが現在は交流を控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の表情・仕草など目配りをし見落とさない様に心がけ・常にコミュニケーションを図りながら信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者様の情報提供を頂きご家族様の要望・悩みなどを聞き出せる環境・何でも話せる関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	毎月ユニットミーティングにてカンファレンス・アセスメントを行いご家族様・ご利用者様のケアについて話し合ったり、出来る事を出来るだけ続け又他に出来る事を見極めながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事・洗濯・買い物など日常生活の中で一人の人として協力しながら家族の様な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様がその人らしく生活が出来るように構築を深めご家族様にご利用者様の現状をお伝えしたり又ご家族様にも何でも相談し合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者の受け入れ・外出を勧めたり、不安になっている方には傾聴し会話の中に安心される方の名前を取り入れ関係が途切れない様に努めている。現在はオンライン・電話などを行い関係を途切れない様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の育って来られた生活環境・性格が違うため対立も見られるが職員が仲介に入り孤立しない様にご利用者様同士の関りを大切にして支え合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	外出先でお会いした時は挨拶を行い、可能な限り行事などのお誘いも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活を送って頂ける様に要望を把握するように努め、一人一人の思い・暮らし方に多少でも近づけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様に尋ねたり・アセスメントシートなどにて情報収集を行い生活歴・生活環境を把握し今までの生活を尊重しながら他の方たちと共に生活をして頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様個々の過ごし方を把握し些細な異変にも気付けるように2~3時間毎にその方の状態・状況などを記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングでカンファレンスを行い職員同士意見交換・介護計画書の見直しなどを行い情報を共有し話し合いながらケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録の記載・口頭での申し送りを細かく実施・申し送りノートを見て情報共有しながら個別記録・介護記録の見直しに活かしているがまだ申し送りノートの確認不足・情報共有が十分でない為活かせるように努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様個々に合ったケア計画の実践の取り組みながらその方に合ったサービスの提供に心がけながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	様々なボランティアの方々に協力して頂き(習字・民謡・コーラス等)楽しみ・役割を持つ事で安心した生活をして頂ける様に努めている。(現在は来て頂くことは難しいのでスタッフの出来る事をして頂いている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回往診日が決まっており急変時・些細な事でも連絡し適切な指導・指示を頂きいつでも連絡できる体制である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は常勤ではないが往診時は必ず付添って頂いたり、看護の日も月2回あり日ごりの様子・異常が見られる時など適切な指示を頂き病院受診後の報告も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院されたときは面会に伺い心身のケアに努めたり、入退院時は注意点などの情報交換に努め病院との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護師・管理者・ユニットリーダー・他の職員との話し合いを行い方針を決めご本人様・ご家族様の要望などを聞きながらその方にとって一番良いケアが出来る様にチームで共有しながら支援に努め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルはあるがしかしマニュアル通りにはいかないなのでその時々々の状況・状態に応じた勉強会に参加し実践に活かせるように身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のマニュアルは作成してある。ユニット内でも防災訓練(水害・地震・火災等)に備えて備蓄をリュクサックに準備し災害時に備えてある。又避難場所も把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手の事を考えながらコミュニケーションを行いながら一人の人として尊重し・ご本人の気持ちやプライバシーに注意し声のかけ方・大きさ・仕草などに気配りながら対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人のペースに合わせ、焦らずゆっくり自己決定をして頂ける様に努め、その人らしい生活を送って頂ける様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様中心のケアを心がけ可能な限り要望に沿えるように一人一人のペースを大切にケアに努め、団体行動が余りお好きでない利用者様が見えるので無理にお誘いするのではなく個別で対応をし楽しく生活をして頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	移動美容院が2ヶ月1回来て頂きご本人様のお好きなヘアスタイルを考えてカットして頂く様に努め、起床時にはスタッフと一緒に好きな服を選び身に着けて頂く様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物はコロナ影響で外出を控えているが、調理・献立などは一緒に行うように努め自分出来る喜び・達成感を感じて頂ける様に、個々の残存機能を把握しながら可能な限り手伝って頂ける様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事・水分等の摂取は違うのでその方に合った調理方法・トロミ剤などを使用し摂取量・盛り付け・食材の切り方などを把握し多少でも食べて頂ける様に工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後その方の力量にて口腔ケアを行い地力の方には声掛け、ご自分で巧く出来ない方にはご自分で出来る所をして頂きその後歯磨きのお手伝いをさせて頂く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて個々の排泄の記録・排泄パターンを把握し個々に合った声掛け・夜間帯のトイレ誘導に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の多い食べ物を提供しゼリー・ヨーグルト・水分補給時にオリゴ糖を入れて飲んで頂き又下剤を併用し、ホットパックや運動にお腹のマッサージ等を取り入れながら排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人一人の希望に添えるように努めているが快適な入浴が出来ているか分からない。しかし入浴中に音楽を流したり、入浴剤などを入れてリラックスして頂ける様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間の活動を多く取り入れ昼夜逆転しない様に努めているがその時の状態に応じて対応している又不穏・不安が見られる時は傾聴してゆっくり休んで頂ける様に努め寝具も季節ごとに使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	複数の薬を服用されている方が多くみられるので副作用等に注意し変化が見られた場合はすぐ対応できるように観察を行っている。今後も薬の服用目的を理解しながら薬の副作用の勉強も行いレベルアップに努めたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の力量が違うので出来る事を見つけながら日々の生活で活躍できる場面を作りながらその方の能力を活かしながら笑顔が絶えない生活を送って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月遠足・ドライブなど計画をし出かけていたがコロナ感染のため外出が出来ないので各ユニットで行事を考え(流しソーメン・スイカ割・少し贅沢な食事・たこ焼きパーティーなど)行っている。外出が出来なくなったときは要望に沿えるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は職員がさせていたが、しかし外出先で欲しいものがあれば職員が隣にてご自分で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を使用される方が限られているが使用される方は職員が仲介に入り会話を楽しんで頂ける様に支援している。又手紙はコロナ禍で面会もできないので少しでもご家族様に安心して頂こうと職員が見守る中で書いて頂けるように努めた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	遠足・行事などの写真・ご自分で書かれた習字・貼り絵などを共有空間に張りその習字・貼り絵などを見て楽しんで頂ける様に工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人で過ごされたい方・他社との交流を好まれる方にはそれぞれ個々の空間で過ごして頂ける様に配慮している又レクリエーション等にもご本人の気持ちを配慮しながら無理せず参加して頂ける様に工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の愛着のある物を持って頂き住み慣れた環境に近づけ、違和感もなく安心して生活を送って頂ける様に工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・居室など名前を記入した紙を張って安全にご自分の足で歩いて頂ける環境作りに努め出来るだけ自立した生活が出来る様に工夫に努め不安が見られる時は職員が対応し少しでも出来る様に支援に努めている。		